

地域と共にある学校づくり

発行：長野県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課

生涯学習プログラムガイド集ホームページ：<https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/bunsho/bunka/shogai/guide.html>

コロナ禍でもできる！つながる信州型コミュニティスクール

信州型コミュニティスクール（信州型CS）



今年度、4月から各地区の教頭会で「信州型コミュニティスクールについて～地域と共にある学校づくり～」と題して、各教育事務所の生涯学習担当者から信州型コミュニティスクールの仕組みや協働活動の実践事例等を説明させていただきました。

その中で、信州型コミュニティスクールや協働活動に日々中心に関わっていただいている教頭先生方から様々な質問や悩み、課題等をお聞きすることができました。

コーディネーターやボランティアの高齢化による担い手不足や、コロナ禍における地域との協働活動をどのように行っていけばよいかという課題が多く聞こえてきました。

今回の生涯学習プログラムガイド集では、日頃から地域の様々な団体とのネットワークをお持ちで、コミュニティスクールの仕組みについてご理解いただきながら、学校と地域の様々な団体をつないでいただく相談窓口となりうる機関が、学校と地域のボランティアをつないだ事例を紹介いたします。

教頭先生からお寄せいただいた課題

- ・コーディネーターの交代時期が近づいてきていて、次のコーディネーターの選出が難しい。
- ・学習支援等のボランティアの皆様の高齢化にともない、後継者の不足が課題に上がってきている
- ・新型コロナウイルスの影響で、地域の方に来ていただいたり地域へ出向いたりすることがなかなかできません。今年はまだまだ厳しいかと…。その中で「どのように地域連携をしていったらよいか」悩んでいます。

また、GIGAスクール構想により各学校に普及しているタブレット端末を活用したコロナ禍でもできる交流活動の事例も紹介いたします。

① 学校と地域をつなぐ社会福祉協議会（伊那市立美篤小学校）

「あははは、楽しいな」、「次は僕とやろうよ」児童たちの楽しそうな声が体育館に響いています。

これらの会話は、伊那市立美篤小学校と地域の方との交流の様子を参観させていただいた時に、児童から発せられた言葉です。地域の方が講師となり、休み時間に体育館でダンスをしたり歌を歌ったりしながら児童たちは体を動かして遊んでいます。この活動は伊那市社会福祉協議会（以下社協）の地域福祉コーディネーター（以下地域福祉Co）が美篤小学校に関わり実現した取組です。社協がコミュニティスクールに関わることで、学校と地域を結んだ事例を紹介します。



○社協がコミュニティスクールに関わるメリットとは？

社協とは「社会（地域の）福祉（幸せを）協議（話し合う）会」と言われています。その社協がコミュニティスクールに関わるメリットについて紹介します。

- ①社協は民間の組織ですが、どの市町村にも必ず1つあります。身近にあって相談しやすいです。
- ②社協の中には、市町村という大きな枠では対応しきれない課題に対応していくために、市町村をさらに細かくした地区社協が存在します。
- ③地域の方との強いつながりがあり、人材を探す時に力になってくれる場合があります。美篤小学校でスクールサポートスタッフが任期切れとなり新しい方を探していた時は、社協の美篤地区担当の方が後任の方を紹介してくださいました。
- ④地域へ幅広い広報活動を行うことが可能です。多くの方に情報を届けることが可能です。

○社協の地域福祉 Co が学校に関わったきっかけ

地域福祉 Co が美篤小学校に関わるきっかけは何だったのでしょか。「いいいの部屋（地域の方の学校内の居場所。地域の方と子どもが関わる場所。中間教室的な役割）」として使用している部屋について「活用方法を一緒に考えてほしい」と、当時の教頭先生から社協に相談がありました。

社協の地域福祉 Co は、地域の福祉課題について住民の主体的な助け合い活動の組織化や関係者のネットワーク作りを行うことを仕事にしており、美篤小学校の申し出は地域活性化のよい機会と捉えて協力することにしたとのことでした。

地域の方の中には学校の敷居が高いと感じている方も多く、「学校へ関わりたい」、「協力したい」気持ちはあるが、「迷惑にならないだろうか」と心配して学校への関わりを遠慮してしまう地域の方もいます。

しかし、あるきっかけからお互いを知ることで敷居が低くなる場合があります。今回のように社協が学校へ関わる事例が南信管内にも増えてきました。社協は地域との太いパイプがあり、学校と地域のつなぎ役として適任です。

※ 市町村毎の社会福祉協議会によって対応が異なります。対応については個別に相談が必要です。

○美篤小学校の事例として

美篤小学校のコミュニティスクールの様子を紹介します。学校にお茶屋さんをお招きし、子どもたちがおいしいお茶の入れ方や、ほうじ茶作りを学びました。学んだ方法でお茶を入れ、お世話になった地域の方に振る舞う活動がありました。

クリスマスの時期に校庭で地域の方と拾った枝を使用したクリスマスツリーを制作しました。友だちと関わるのが苦手な子どもも、クリスマスツリーの制作を通して地域の方と自然に関わることができました。

これらの活動は、いいいの部屋で行われています。学校からいいいの部屋の活用の要請を受け、地域福祉 Co が子どもたちの願いや思いを何とか実現させたいと地域へ働きかけたことで実現した事例です。



お茶屋さんからほうじ茶作りを学ぶ地域の方と児童

美篤小学校のコミュニティスクールの活動は、子どもにとって学校では学べないことを地域の方から学ぶ機会に、地域の方にとっては子どもたちから元気をもたらす機会になっているようです。

冒頭で紹介したダンスの講師の方も「子どもから元気もらっている。自分が楽しんで参加させてもらっている。」と嬉しそうに話していました。

美篤小学校と関わる地域の方は、お互いに気軽に話ができて、学校の活動に参加しやすくなっており、学校への敷居が低くなっていることが素晴らしいと感じました。



廊下に設置されているCSの活動を知らせる掲示板に子どもたちから活動したい内容等を把握するためのアンケート箱

地域福祉 Co は学校の廊下に、子どもたちが「地域の方たちとどんな遊びをしたいのか」等自由に意見を入れられるアンケート箱を設置しました。このアンケート箱に入れられた子どもたちの意見をもとに、次の活動を考え、交流内容を考えています。また、できるだけ学校に負担をかけないようにしたいと願い、このアンケートの設置や回収などは担任の先生が入らずに運営をしています。こうした取組も学校と地域が互いに無理のない範囲で Win-win の関係を築くことができる理由だと思えます。

これまで私は社協と聞くと、学校に福祉教育のプログラムを提供して下さる機関だと思っていましたが、「人と人をつなげる」、「地域に根ざした活動」を大切にされていることもわかりました。校長先生は行事の時だけのイベント的な関わりではなく、「日常的な関わりや支援」ができる地域を目指しています。地域の幸せを実現していくためには、お互いが無理せず、持続可能なものにしていくこと、そしてさらにより信頼関係を築いていくことが大切だと思います。

そのためには両者の間に入って、お互いの立場を理解し支える方がいると効果的です。コミュニティスクールの活動の主体は「子ども」と「地域（の方）」ですが、社協のように「人と人」、「地域と学校」を陰で支えたり、学校や地域の方の相談にのったりする役割をされる方の力が求められているのではないのでしょうか。みんなが同じ地域で生活する仲間として、気持ちよく、生き生きと生活することができる、そんな地域をみんなで目指していきませんか。

(南信教育事務所生涯学習課 指導主事 唐澤 秀司)

②シニア大学「Zoom チャレンジ倶楽部」とのオンライン交流活動（千曲市立屋代小学校）

千曲市立屋代小学校2年生では、コロナ禍でも交流活動ができる方法を探っていました。



【末廣・中村先生】

2年生は入学からコロナ禍での生活で、ふれあいの機会がとても少ないことが気になっています。子ども達には人と接する体験をして、関わることの良さや楽しさを味わってほしいです。タブレット端末を使って、オンラインで交流できたらいいのですが。

そこで、以前からつながりのあった、長野県長寿社会開発センター長野支部のコーディネーターと相談をしました。

シニアの皆さんはコロナ禍で目標となる活動がなくなってしまい、残念です。コロナ禍で発足したズームチャレの皆さんが、学んだ事（趣味や特技等）を発表できる場や、身につけたオンラインスキルを生かして社会参加ができればいいのですが。



【斉藤
コーディネーター】

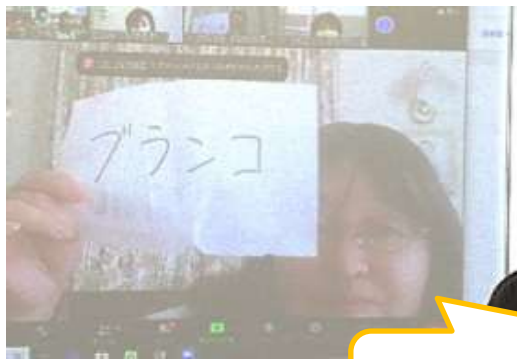
コロナ禍により交流機会がなかなかつくれずいた小学校と、学んだ Zoom の技術を活用しながら交流の幅を広げたいシニア、どちらにとっても素敵な活動になることを願い、本活動が始まりました。

ズームチャレとは、「Zoom チャレンジ倶楽部」のことです。シニア大学の在校生やOB等、60～70代の方々が参加しています。コロナ禍で繋がりが減っている中で Zoom の基本操作を学び、学びを活用してメンバーと交流することを目的としています。

○活動の様子から

この日は、2年竹組さんの初めての交流活動でした。画面にシニアの方々の顔が映ると子どもたちの表情がぱっと明るくなりました。自己紹介では、シニアの皆さんが、自分の好きな果物と名前を紹介する度に、子どもたちは笑ったり、拍手をしたり「同じだ!」とつぶやいたり、楽しそうな雰囲気です。クイズの場面では、難しい問題に、子どもたちもシニアの皆さんも一喜一憂していました。シニアの方が正解すると思わず子どもたちが拍手する場面も見られ、画面越しでもつながりを感じられている様子が見られました。

①こいでも、こいでも、おなじところを行ったり来たりするものはなんでしょう。(シニアの人分かるかな?のつぶやき)



③正解!!
シニアの人、超すげーじゃん!!

②ズームチャレの皆さんは紙に答えを書きます「ブランコですか?」

○打合せのポイント

コミュニティスクールを推進するにあたり、コーディネーターの方やボランティアの方との『打合せ』をどのように進めれば良いのかを課題と感じているという声をお聞きします。今回の活動では、お互いのねがいを実現するためにどんな打合せを行ったのでしょうか。担任の先生方と、長寿社会開発センターのコーディネーターにお話をお聞きしました。

「何を事前に打ち合わせしましたか?」(打合せにはオンラインも活用されたそうです)

最初に、この活動で、**お互いに何をを目指したいのか**を話しました。シニアの皆さんが求めること、子ども達がどうなると良いのかを、お互いに**確認**でき、**共感**したので、何をすれば良いのかが具体的に決まり、準備する事ができました。



【末廣先生・中村先生】

そうですね。**目指す方向が決まると、やりたいこと、準備することが見えるので、目的をはっきりさせることが一番大事**かもしれません。他には、シニアの方が今どんなことができるのか、子ども達がどんなことをしているのか、今の状況について情報交換しました。**活動主体となる子ども達やシニアの皆さんの現状を知ることは必要**だなと思います。



【齊藤コーディネーター】

はい。シニアの皆さんの様子を子ども達に伝えることで、子ども達も**相手意識**をもって活動できたのではないかと思います。

活動の**目的を明確にし、互いに共感したことでWinWin**の活動となっているこの交流は、現在も継続して行われています。

(北信教育事務所生涯学習課 指導主事 岡田 絵美)